東盛岡の先人達(1) 方長老、栗山大膳、黒田官兵衛

山田 公一(市民の歴史探究館)

大河ドラマの「黒田官兵衛」の兜が本来は盛岡に保存されてきて、いま全国各地を駆けめぐり公開されている。なぜ当地にあるのか?は、もりおか歴史文化館で知ることが出来るがこのことの原点的な紹介記事は私の父が1960年頃雑誌に載せているので近年判明したことも併せお知らせを。

1633(寛永十)年、官兵衛の子孫黒田藩の内紛で家老栗山大膳が盛岡にお預けとなった。文化的な人で京都大徳寺や小掘遠州とも親しい。二年後には対馬藩の外交担当僧侶「方長老」も幕府と朝鮮政府との板挟みでやはり盛岡へお預けになった。両者は新しい知識に通じ、南部藩士や領民文化の啓発の功が大きい。多少時代は異なるが大嵐で難破し函館に漂着した朝鮮役人を江戸まで藩が護送し無事に帰国させ文通もあった事件等国際性に富んだ歴史もある。

実質的には流刑に等しい東北への旅に栗山は黒田長政から拝領した兜を南部家に献上した。これが今年話題の兜である。また、対馬の外交僧「方長老」については30年程昔に来盛350年のお祭りが馬場勝彦を始めとする方々によって盛大に行われた。蕎麦や黄精飴にも関係した方長老を調べるべく池野藤兵衛や山田勲がゆかりの対馬厳原港傍の西山寺等を訪れた際に私も同行した。

栗山は盛岡下小路に住まいし、おそらく方長老もその近くにいたと思われる。盛岡東部、「東盛岡」の先人を語るには欠かせない原初の人々だ。その頃、山岸や浅岸地区は室町時代の街道から城下の東北部要衝地帯へと変貌しつつあり、上の橋から加賀野や大日方面には小路が形成されており見渡す限りの田園風景が街路両側にあったと思われる。

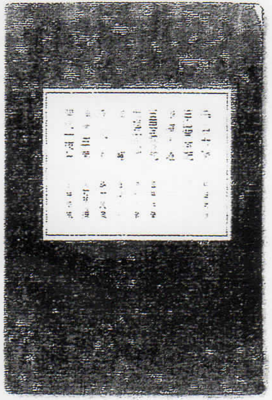

写真:戯曲栗山大膳ほか
新聞人弓館芳夫を経て大矢馬太郎取得
(推定大正初期)当館蔵
参考:淡交いわて第18〜20号 南部藩茶道史 山田勲 1960年代
催し案内:方長老ゆかりの対馬全島ドライブ映像公開(事前申し込み) 1985年撮影